

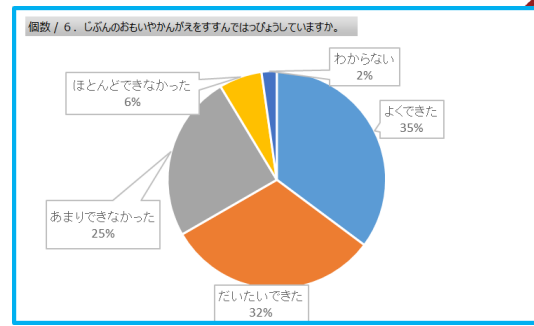
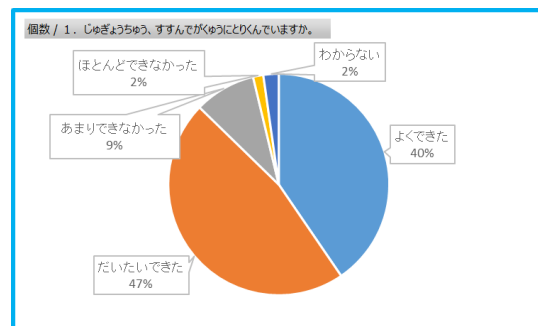


ARASHIYAMA ELEMENTARY SCHOOL
学校便り 特別号
嵐山 だより

令和 7 年 2 月
京都市立嵐山小学校
校長 野浪 健史

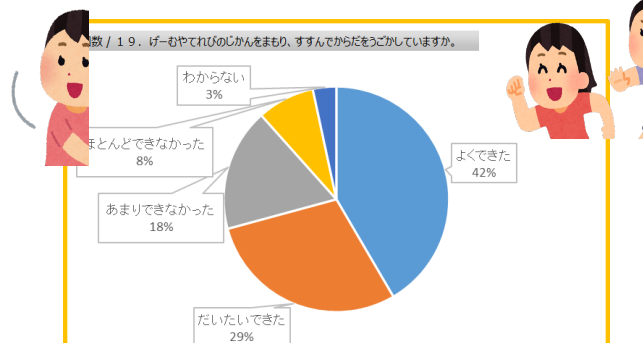
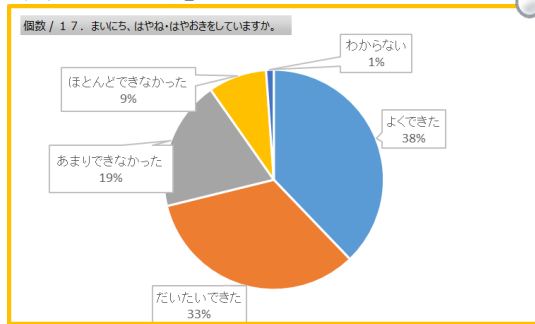
春寒の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は本校教育推進のためにご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。保護者の皆様にはお忙しい中、「令和6年度後期学校評価アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。集計結果を考察します。

「確かな学力」について



本校の学校教育目標は「学びにチャレンジ」です。自ら進んで学習における問題を見つけ、子どもたちが「調べてみよう。」「やってみよう。」という意欲をもって学習に向かえるように教職員は研修を重ね大切にしてきました。子ども自身が「やってみよう」と思っていたことが「実現できた」という経験を積むことで今後の学び方が飛躍するはず。大人が言ったことだけを黙々とこなすのではなく、「自分から進んで」という姿勢は全ての活動の根幹となると思われます。

「健やかな体」について



前期同様、毎日、早寝・早起きをしていますか。」「ゲームやテレビの時間を守り、すすんで体を動かしていますか。」「の両項目では、「よくできた」「だいたいできた」と答えた児童はどちらの項目も全体の7割でした。学校では、「JUMP UP」という活動に取り組んできました。その一環で、子どもたちが「投げる」「跳ぶ」等の遊びを休み時間や放課後に自由にできるよう「遊び道具」を用意しました。運動場では、多くの子どもたちが元気にそれらを用いて遊んでいました。また、5・6年生の運動委員会の子どもたちが全校で鬼ごっこを企画するなどして仲間たちと体を動かして元気に過ごせるようにしました。体を動かすことは、楽しく清しいこと、それが仲間と一緒にだともっと楽しくなることを今後も子どもたちに実感してもらいたいと考えます。

令和6年度 後期学校評価アンケート 結果のお知らせ

＜学校教育目標＞

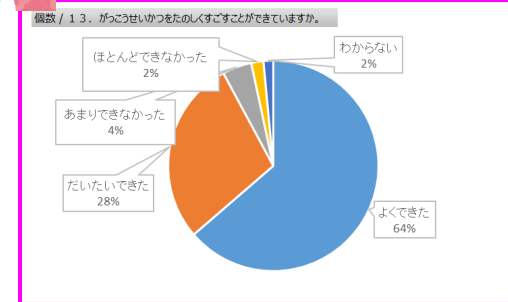
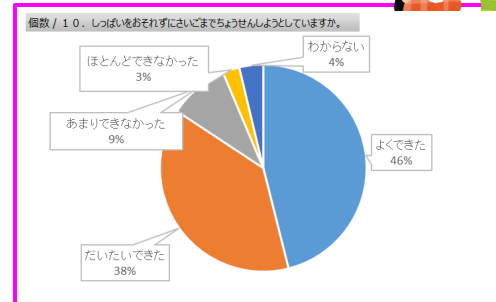
自ら関わり、ともに支えあい学びにチャレンジする子どもの育成
～友だち大好き 学校大好き 地域大好き 嵐山の子～

確かな学力

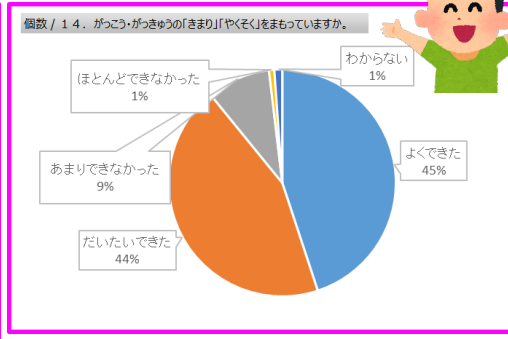
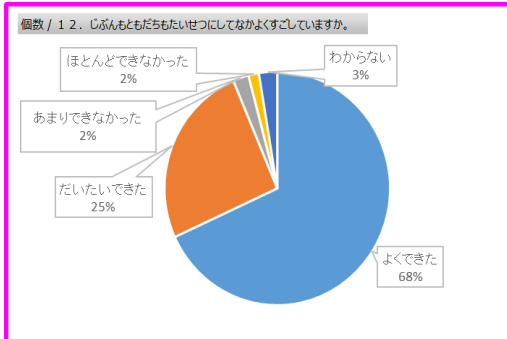
健やかな体

豊かな心

「豊かな心」について



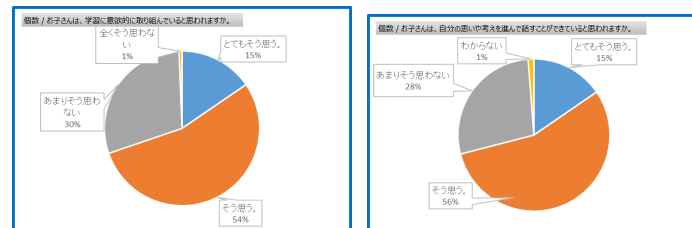
「失敗を恐れず最後まで挑戦しようとしていますか。」「学校生活を楽しく過ごすことができますか。」の両項目では、前期同様約9割の児童が「よくできた」「だいたいできた」と回答しています。学校を楽しみに思い、登校し、元気に過ごしている児童がたくさんいるというのは、とても嬉しいことです。家庭の中とは異なり、学校で集団生活を送る上で、子どもたちは、友だちと関わる中でもめまったり、嫌な気持ちになったりすることもあります。しかし、大人にとって一見負に思われる感情や行動も子どもにとっては大切な経験になることがあります。「元気に学校へ来る」、「友だちと明るく学校生活を過ごす」そして「明日を楽しみにして帰る」という子どもの姿が見られるように教職員も子どもたちを注意深く見守っていききたいと思います。



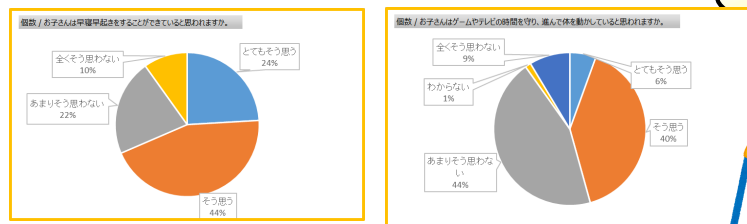
「自分も友だちも大切にしてお互いに仲よくすごしていますか。」「学校・学級のきまりや約束を守っていますか。」の両項目とも9割の児童が「よくできた。」「だいたいできた。」と答えています。学校は、いろいろな友だちがいて、いろいろな考えに出会う場所です。自分と誰一人として同じ人はいません。そんな中で、自分も周りの仲間も尊重し、大切にすることを経験し、日々の教育活動で学べるようにしています。そう遠くない近い未来に、子どもたちが社会に出る前に多様な考え方を学びます。多様な考えが尊重されるために、みんなが守らなければいけない「きまり」や「約束」があります。一人一人が大切にされ、やってみよう、やってみよう、やってみよう、表現したいように表現できるような学校を子どもたちと共に、私たち教職員はこれからも目指していききたいと思います。

<保護者・教職員アンケート結果>

確かな学力



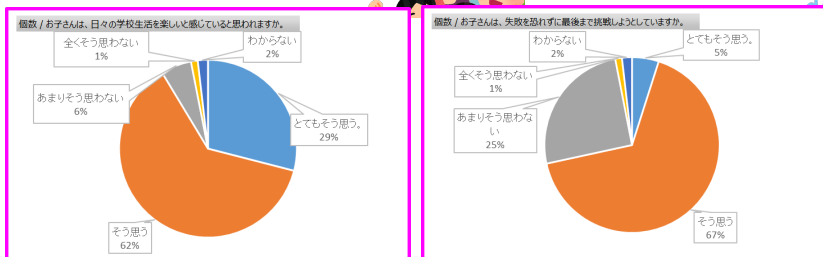
前期同様に、子どもたちが学習に対して意欲的に取り組んでいるかをお尋ねしました。およそ7割の方が「そう思う」と回答されました。「意欲的」とは「大人が指示しなくても」「子どもが自分から」といった姿勢が家庭でも見られるというところでしょうか。学年が上になるほど、宿題は自分で考えて取り組む自主学習が増えていきます。学年もまもなく終了を迎えます。この1年で培った力を落とさないで、できるようになったことを次年度も生かして更なる成長を促したいと考えます。さらに子どもが自分の思いや考えをすすんで話せているかを尋ねると、「できている」と回答されたのは約7割でした。自分の考えを有し、自分が言わなければならない場面で表現できているなら大変良いことだと思います。半面、自分の考えがなかったり、自分が言わなければいけない場面で大人や友だちに言わせていたりするのであれば、それは学年相応の力をつけることが必要です。そして、表現することの良さを学んでほしいと考えます。



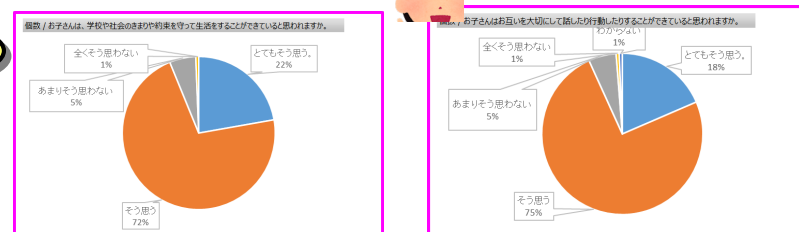
健やかな体

保護者への「お子さんは早寝早起きをすることができていると思われますか。」という設問では、およそ7割の方が「できている」と回答されました。冬の暗い朝は起きにくいですが、早寝を心掛け清々しい朝を迎えられるようによろしくお願いします。ゲーム等電子機器を扱うときに時間が守れているかを尋ねると前回より「全くできていない」「そう思わない」の回答が増しました。ゲームやテレビは「いつまでも」楽しめるように作られています。時間を守って楽しむことができるように、また、ゲームやテレビ以外にも楽しいことが見つけれられるといいのではと考えますが、いかがでしょうか。

豊かな心



前期同様「お子さんは、日々の学校生活を楽しいと感じていると思いますか。」の質問について、多くの保護者の方が、「そう思う。」と回答されました。学校における「楽しい」とは、「(失敗しても)がんばったことが認めてもらえること」「自分も人の役に立っていると思うこと」「明るく励ましてくれる仲間がいること」ではないかと考えます。子どもたちが明日の学校を楽しみにして登校できるようにこれからも学校と保護者の方が互いに協力し合って子どもの「楽しさ」を見つけたいと思います。



「お子さんは、学校や社会のきまりや約束を守って生活することができていると思われますか。」「お子さんはお互いを大切にして話したり行動したりすることができていると思われますか。」の質問について、およそ9割の方が「できている。」と回答されました。学校ではお互いが気持ちよく過ごせるようにするにはどうすればいいのか、お互いを尊重するとどんないいことがあるのかなどについて考え行動できるようにしています。子どもたちが自分のことは自分でできるように大人は促し、社会に出るための自信をつけたいものです。

<記述欄について>

令和6年度がまもなく終わります。学校のことやお子さんのことについてのお考えをお伺いしました。一部抜粋して掲載します。

<皆様からのご質問・ご意見>

- 休み時間に先生方が一緒に遊んでくれることをすごく喜んでいます。
- 授業において、子ども同士で議論する際、話すことに積極的な子と消極的な子とで分かれているように思います。積極的な子には傾聴の姿勢を、消極的な子には話しても大丈夫な安心感が必要かと思ひます。
- 自主性を教育していただくことは、将来のために必要であることは理解できるが、宿題を写し忘れて、家庭で宿題ができない、持ち物やわからなくて、授業が遅れてしまうのでは、本末転倒であると思うので、声かけ、フォローの徹底をお願いしたい。
- もうすぐ卒業します。校長先生をはじめ 全ての先生方と児童が身近で、あたたかくとても良い小学校だったと思います。地域の方々にもいつも見守っていただき、安心して子どもを通わせられました。子どもたちがおいしいと評判の給食もありかたかったです。
- テスト実施日などが予定表で分かったと助かります。以前は書いてあったと記憶していますが今年から記載がなく、困りました。
- 運動会や学習発表会など、全校で集まる会のよさを実感しました。大人の視点ではいろいろ思うところはあると思いますが、変わるべきところは変わらなければなりません。子どもたちのいきいきと楽しそうな様子を見ると、小学校でしかできない経験をこれからもしてほしいと思います。運動会や学習発表会の参観を通し、嵐山小は落ち着いている雰囲気の中、楽しそうに活動する子が多く、すてきな学校だと改めて思いました。学習発表会での全校合唱は本当にすてきでした!



<アンケートを通して>

ありがとうございました

アンケートの考察は、児童と保護者の方へのアンケートは同内容で、かつ、前期と同内容で掲載しました。学校では「自分のことは自分でできるように」「失敗することも大切な学習」ということを心にとめ、全教職員で子どもの教育に当たっています。小学校には6歳から12歳の子どもが通っており、発達段階も大きく異なり、一人ひとり個性もあり誰一人同じ子どもはいません。そのため、その子なりに自分でできることは自分でするように担任は同じ学年の教員と話し合います。「時間割や宿題をメモする」「忘れ物がないように、持ち物を点検する。」などを学年に応じて子どもたちに声をかけます。また、困ったことがあれば自分から担任や友だちに伝えるように促します。家庭とは違い、学校では友だちと一緒に活動する中で、思い通りにならずに、悲しくなったり怒ったりすることもあります。しかし、それは子どもにとって大切な経験だと考えます。自分はこれからどうしたらよいか、悩みながら良い考えに向かっていくことは大人に向かうための大切な心の成長となります。子どもたちの成長のために何か必要かをこれからも全教職員で考え取り組んでいく所存です。今後とも何卒よろしくお願いいたします。